

## 近世社会における死亡の季節性

—西日本の事例より—

内田 鉄平

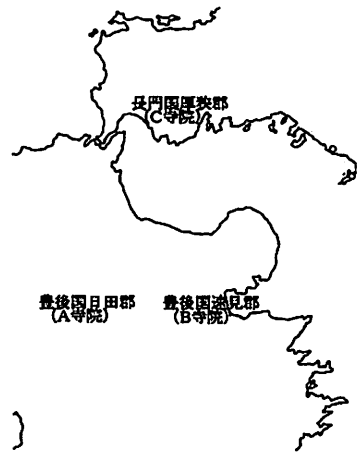
はじめに

本稿は近世社会の生活環境について死亡の季節性という視点からその復元を試みる。歴史時代における生活環境の復元としてこれまで気候変動や食大系、総合的には人口変化など各方面から分析が加えられている。

死亡と季節性について、中世社会では田村憲美氏の本土寺過去帳の分析によって「死亡の季節性」の因果関係を指摘されている。田村氏によれば、春期→初夏にかけて端境期までの食糧不足による高い死亡率が確認された。同時に近世期における平常時の死亡と季節性については中世期の動向と異なり、夏季・冬季に死亡の山が存在する。また近世から近代移行期の様子について公衆衛生学者の榎山政子氏の研究では、近世期から明治中期までの死亡について全国的に夏季に集中し冬季においても夏季に次ぐ集中である。その後二十世紀に入ると死亡の山は夏季のみに起こり、その死亡の山も徐々に減少していく変動パターンを示されている。

そのことを踏まえ歴史人口学の分野から言及された鬼頭宏氏は、二十世紀以前の死亡の季節変動パターンについて、十七世紀頃に近世型と称すべき季節変動のパターンが成立し、十九世紀になると夏の山が強調される転換期前へと変化し、その後は人口転換の過程に関連

(参考)事例地域について



して夏の山が低下することを指摘している。

これまでの研究によつて死亡の季節性については中世期から現在に至るまでの関係が証明されるなか、本稿では近世社会から近代

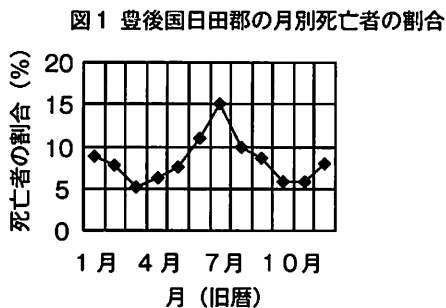
社会に至る変容を死亡の季節性の関係から指摘するもので、加えて従来の研究蓄積が中部日本や東日本に偏重されていることを踏まえ、右にある事例地域として西日本に位置する東九州（豊後国日田郡・速見郡）と瀬戸内地域（長門国厚狭郡）での死亡の季節性の関係を示し、それぞれの地域の特長を改めて検討していきたい。

なお分析に使用する史料の過去帳では寺院名は伏せておく。過去帳は本来物故者の供養を目的として作成されるものであり、記載方法も日牌式、編年式と大きく二種類に分かれる。そこには物故者の実名・戒名（法名）・死亡年月日が記されているが、本稿では特定の地域における死亡の季節性の動向を窺う史料のみに利用する。また近世期の閏月は前月と合算して分析している。

### 1、豊後国内における死亡の季節性

本章では豊後国内における死亡と季節性の関係について検討を行

図1は近世後期の豊後国日田郡における死亡と季節性の関係を示

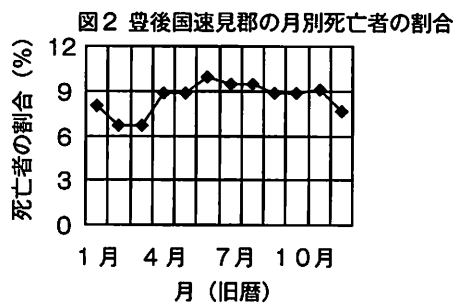


1月	2月	3月	4月	5月	6月
8.9%	7.8%	5.2%	6.3%	7.6%	11.0%
7月	8月	9月	10月	11月	12月
15.1%	9.8%	8.5%	5.9%	5.9%	7.9%

う。対象地域は豊後国日田郡及び速見郡である。ここでは比較的近隣地域で近世後期における死亡の季節性ととの関係を明らかにしたい。

(1) 豊後国日田郡における死亡と季節性

はじめに日田郡の様子についてみていく。使用する寺院過去帳については紹介すると、豊後国日田郡A寺院過去帳は、現存する過去帳六冊に分冊され編年式で年次ごとに物故者を記載している。記述の内容は実名・法名(戒名)・死亡年月日・居住地・家主との続柄であり、檀家は日田郡南部に点在している。物故者の社会的階層は農民である。記述のはじまりは明和七年(一七七〇)で最後は文政十二年(一八二九)である。分析した期間は死亡年月日が明らかでない安永四年(一七七五)～文政十二年で、分析件数は七三八件である。



1月	2月	3月	4月	5月	6月
8.0%	6.7%	6.7%	8.8%	8.9%	10.0%
7月	8月	9月	10月	11月	12月
9.5%	9.4%	8.8%	8.8%	9.1%	7.6%

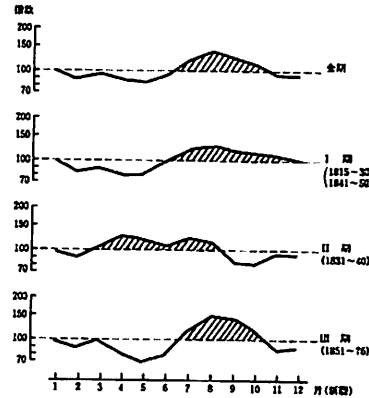
したものであるが、ここでは死亡の山は夏季(旧暦)の6月～8月に多く、冬季も夏季に次いで死亡の山が確認できる。豊後国日田郡が示した死亡と季節性は従来指摘されている、夏季・冬季に死亡の山という典型的な近世期の死亡と季節性のパターンを示した。

(2) 豊後国速見郡における死亡と季節性

次いで、豊後国速見郡における死亡と季節性について分析を行う。現存する寺院過去帳(豊後国速見郡B寺院)は二冊に分冊され、編年式で記述されている。全体に破損・虫損があり、分析可能な期間は天明三年(一七八三)～安政三年(一八五六)で、分析件数は六七四件である。記述の内容は実名・法名(戒名)・死亡年月日・居住地・家主との続柄、一部に死亡年齢の記述もある。檀家が点在する地域は速見郡の沿岸部、現在の大分県別府市西域を中心に市域一帯に及ぶ。檀家の社会的階層は日田郡同様、物故者は農民である。

図2では豊後国日田郡が示した図1の様相と同傾向ではあるものの若干異なっている。差異は図1がアルファベットのW字型に近似しているものの、速見郡の図2が示す死亡の山は高低の差がそれほど無いと言える。死亡の山として夏季と他の月との高低における差は確認されるものの、冬季における死亡の山が図1に比べそれほど目立たない。

(参考)江戸住民の月別死亡指数



注 鬼頭宏『人口から読む日本の歴史』163頁・図9を引用。

速見郡と同じ傾向としては、本所回向院過去帳による江戸住民の死亡と季節性が同傾向で、江戸住民における死亡の山は夏季に若干高い。ただし、この二つの地域は生活環境や年次死亡率も異なる。

り、単純比較は出来ないものの、図1で示した日田郡のパターンとは明らかに異なる。つまり、近世社会における死亡と季節性の関係は日本国内において何らかの生活環境により微妙な差異が存在するのではないか。その点についてひとつの可能性を同じ豊後国内の事例から探っていききたい。

(3) 豊後国内における地域差について

豊後国日田郡と速見郡では直接距離で僅か数十キロにしかない地域であるが死亡と季節性の関係では異なるパターンを示した。

表1 図1・2の事例地域の社会階層について

豊後国日田郡				豊後国速見郡			
旧高旧領取調帳		日田郡村々書上帳 (1850)		旧高旧領取調帳		横瀬中竈門人数等改帳 (1748)	
大野村	337	家数	124	北石垣村	835	家数	131
赤石村	306	人別	605	平田村	333	人別	883
柚木村	208	人別	304	亀川村	132	人別	397
		人別	741			人別	545

注 「日田郡村々書上帳」、「横瀬中竈門人数等改帳」については「大分県の地名」記述内容を参考。

そこで分析した過去帳に記載された地域について検討していきたい。A寺院とB寺院の過去帳に記されている物故者の主要地域を表1にまとめた。両地域ともに農村であつて社会的階層に大きな相違は無いとみられる。

日田郡では生産量において畑高の割合も多い。日田郡南部は山間部が多く水田に適さない場所では畑地で大豆を栽培し、売却銀を年貢に充てる地域が多い。また速見郡においても村々では水田のほかに畑では生姜などを栽培している。

地理的条件として日田郡は山間部、速見郡の村々は沿岸部に位置しているものの、いずれも人口密集や農業が主産業ということから経済的な地域的差異は考えられない。食糧事情という面で多少の違いは存在すると思われるが、両地域において決定的に異なる生活環境として気候条件が挙げられる。

図1・2の示す相違として日田郡では死亡の山の高低が大きく、夏季を中心に冬季の死亡の山も確認できるが、図2が示した速見郡の場合、夏季に若干の死亡の山が存在するものの全体的に死亡の山はなだらかである。当

表2 別府・中津冬季気温の対比

地域	1月	2月	11月	12月
別府	8.2℃	8.9℃	13.6℃	9.6℃
中津江	3.3℃	4.9℃	11.3℃	6.2℃

注 昭和25年「大分県統計年鑑」参考。

然ながら分析件数の数が少なければ各月の死亡者数の割合に大きく影響するが、図1・2ともほぼ同数の分析件数であり比較すれば冬季を中心に季節における死亡の傾向に差異が存在する。

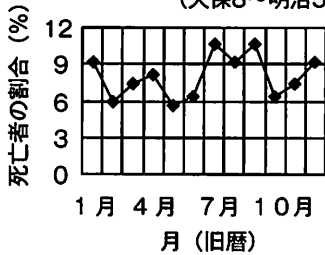
特に冬季における死亡の山の相違は大きく、冬季の死亡者の割合がグラフの高低の差をもたらししている。そこで冬季における死亡の原因を探るなかで、気候条件の差が関係するのではないかと考えた。

表2は図1・図2の豊後国二地域に近い地点で最も古い統計資料(『大分県統計年鑑』)をもとに冬季の

気温を比較したものである。確かに冬季において近世期の豊後国日田郡南部の中津江村(現日田市)と豊後国速見郡の別府市では、気温に大きな差異が存在する。特に1月・2月の気温の差は3〜5度程度あって、当然冬季による生活環境の違いは呼吸器系疾患やインフルエンザ等の流行性感冒などによる死亡率に大きな影響を与えるのではない。

ここでは近世後期というほぼ同時期にあって数十キロという比較的近い地域においても死亡の季節性に若干の相違が示され、その違いの要因について、一面的な考察であるとの諷りを承知のうえで、あえて気候的条件を一つの要因として分析を行った。分析した件数の違いもあり一概に比較は難しいけれども、今後においては回向院過去帳の分析結果や二本松藩仁井田村<sup>10)</sup>が示すように多くの地域における死亡と季節性の結果を集積し、そこから近世社会における死

図3 長門国厚狭郡の月別死亡者の割合 (天保8~明治5)

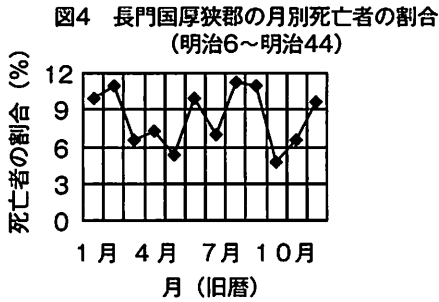


1月	2月	3月	4月	5月	6月
9.2%	6.0%	7.4%	8.1%	5.6%	6.4%
7月	8月	9月	10月	11月	12月
10.6%	9.2%	10.6%	6.4%	7.4%	9.2%

亡と季節性の関係についても都市や過疎地域という人口密集との比較、山間部、沿岸部・平野など気候条件や食糧事情の相違などを判断しながら、より詳細な検討を試みる必要があるのではない。

2、長門国厚狭郡における死亡と季節性

次に長門国厚狭郡の寺院(C寺院過去帳)に伝わる過去帳の分析から、瀬戸内地域における死亡と季節性を分析していきいたい。過去帳は編年式で記載され、死亡年月日のほかに法名と俗名、出身村の記載が確認できる。この過去帳では近世期から近代期の移行における死亡と季節性の関係を知ることが可能であり、分析を行なうにあたり、図3を近世期型とし、図4を近代移行期型とした。

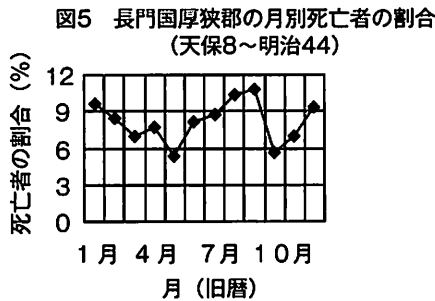


1月	2月	3月	4月	5月	6月
9.9%	11.0%	6.5%	7.3%	5.4%	9.9%
7月	8月	9月	10月	11月	12月
7.0%	11.3%	11.0%	4.8%	6.5%	9.6%

なお近世期型を天保八年（明治五年（分析件数二八八件））とした理由は明治五年まで太陰暦の年月日で死亡年が記され一冊にまとめられ、以降二冊目は太陽暦（新暦）で記載されており、明治五年をひとつの区切りとして選択したのである。なお図4・図5のグラフは図1・3と比較するため新暦を旧暦に改めた。

分析結果として図3では夏季・冬季に死亡の山がみられる典型的な近世社会における死亡の季節性のパターンが示されている。ただし、図1ほど冬季における死亡の山は明確ではない。さらに死亡の山が九月にも存在している。

次に明治期における死亡と季節性について、明治六年から明治四十四年（分析件数三五五件）までを分析した結果を図4に示した。図4では、死亡の山は近世型とほぼ同傾向で、死亡の山は夏季と冬季にあつて秋季にも出現しているように見受けられる。



1月	2月	3月	4月	5月	6月
9.6%	8.5%	7.0%	7.7%	5.4%	8.2%
7月	8月	9月	10月	11月	12月
7.0%	11.3%	11.0%	4.8%	6.5%	9.6%

榎山政子氏が示した季節変動形態では、明治後期より徐々に死亡のパターンは近代型へと変化していくと指摘されており<sup>12</sup>、図4の結果は変化する直前の様相を示しているものと思われる。当然ながら死亡の季節性がどのように近代型へと変化するかについては、さらなる事例研究を示していく必要がある、今後における各地の事例蓄積が待たれる。最後に過去帳全体の物故者を示した死亡と季節性については図5として示しておく。

長門国厚狭郡における過去帳の分析では図3、図4ともにこれまで指摘されていた死亡の季節性と同じ傾向にあり、天保八年から明治四十四年まで全体を通じた分析結果は次の通りである。厚狭郡にみられる傾向は近世後期から近代初期においては死亡の山が夏季、冬季に存在しており、明治期においても依然近世型の傾向であった。

おわりに

本稿では近世社会における生活環境を死亡という現象から考察を行なった。人の死亡と季節との関係については、いくつかの研究事例がこれまで散見されるなかで、本稿の事例研究では西日本の瀬戸内海に面した二地域（豊後国・長門国）の様相を窺うことができた。豊後国内の二地域の事例、日田郡と速見郡では、夏季と冬季に死亡率が高まるという従来からの研究結果と同様であるものの、死亡率において差異が存在することを確認した。

長門国厚狭郡では、近世後期から近代初期における移行期間の分析を試みた。分析件数こそ少ないが、天保八年から明治五年までは夏季と冬季に死亡の山がある従来型、さらに明治六年〜四十四年においても秋季に死亡の山は存在するが、近世型の死亡パターンを踏襲している。明治期において近代型への以降はその後となるのであろうか。

本稿ではこれまで研究蓄積が乏しい西日本の事例を示すことが出来た。まだ傾向を示すのみで、これら研究蓄積の深まりにより人々の生活環境から近世期の様子や近代移行期の変容の原因を知ることができよう。

- 1 田村慈美 「日本中世村落形成史の研究」校倉書房、一九九四年。
- 2 榎山政子 「世界における死亡の季節変動形態の研究（第一報）」「地理

学評論 四二―一、一九六九年。

3 鬼頭宏 「もう一つの人口転換―死亡の季節性における近世的形態の出現と消滅」『上智経済論集』四四―一、一九九八年。

4 「日田郡A寺院過去帳」は現在、別府大学附属博物館所蔵である。

5 「速見郡B寺院過去帳」は一時期別府大学図書館に寄託されたもので、所有者からデータとしての使用許可をいただいている。

6 鬼頭宏 「人口から読む日本の歴史」講談社、二〇〇〇年。

7 「日田市史」一九九〇年。

8 「別府市誌」一九八五年。

9 榎山政子 「疾病と地域・季節」大明堂、一九七一年。

10 成松佐恵子 「庄屋日記にみる江戸の世相と暮らし」ミネルヴァ書房、二〇〇〇年。

11 「長門国厚狭郡C寺院過去帳」は山口県宇部市内の寺院過去帳で、所有者からデータとしての使用許可をいただいている。

12 前掲注2。